

第28号
平成19年
3月13日

すまいるたん

汐入



発行元
東京新聞
南千住東口専売所
Tel.5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
Tel.090-2657-0300

創業大正5年、
和の心、ハシの口
近江屋呉服店

「店の内装は釣り好きな夫が屋形船をイメージして作ったんですよ。」

茶を基調とした竹、木を使った近江

屋呉服店の店内は21年前に亡くなった2代目の山本光男さんのこだわりの手作り。

90年の歴史の落ち着きと和みを感じます。

近江屋呉服店の3

代目となる山本孝子さん（62歳）は3人の子育てをしながら、

お店を守ってきました



た。ジョイフル三ノ輪商店街でかつては4軒あった呉服店も着物離れが進み、今は近江屋呉服店だけとなってしまいました。

ここでは、儀礼や祭などの「非日常」のハレ（晴れ＝折り目・節目を指す言葉）の商品の数々があります。訪問着・色無地・小紋など着物はもちろんのこと、和装に関するもの全般、帯・草履・バックから小物まで細かく商品が揃えられています。また、お祭り用品も男女・子供から大人までここで一式揃えられます。

す。浴衣・甚平・七五三の祝着・はんな・スモック・エプロン・寝間着・タオル・日本手ぬぐい等、呉服問屋より仕入れました日本製の和の趣き溢れる洋品も多数取り揃えております。近年は、中年向けの洋品も扱い始めました。その他、高級呉服の展示販売会なども随時ご案内致しております。

値段が高くてと敬遠されがちな着物で

すが、近江屋呉服店では、実用呉服として5千〜1万5千円と手頃なポリエステル100%の「洗える着物」も扱っております。合織の着物、洗える着物は絹とは違った安っぽい風合いだから、ひと目ですぐ判る。そう思っている方がまだ大勢いらっしゃると思いますが、近年の繊維そのものの研究と飛躍的な技術の発展によって、今や手に取ってみても絹とほとんど見分けがつかない素晴らしい風合いのものが創られるようになってきました。何度洗ってもおろしたてのようにキチツとしていて、絹よりも手入れが簡単なので踊りのお稽古着としてよく売れています。

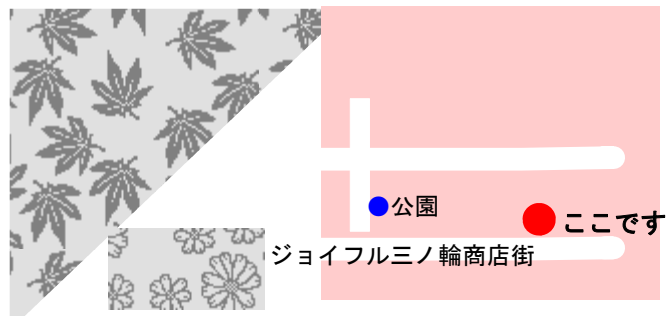
背が高く痩せている方、背が低くて太っている方、十人十色で体型は皆それぞれ様々です。お茶を楽しまれる方は座った時を考えて前幅はたっぷり広めにとると前がはだけません。また、踊りをされる方は衿をたっぷり長めにとるように、仕立てはベテランの仕立て屋さんへ委託。代金は裏無しで1万・裏付きで1万5千円、1週間位で、できあがりです。

もう来月の後半からはお祭り用品が店頭並びます。お祭りが一段落すると、色鮮やかな浴衣が、冬には半天が、日本文化の流れが四季折々、ゆつくりと近江屋呉服店には流れております。

「必要な物は誠心誠意、用意致します。」

90年続く店の信用・信頼、固定のお客様は多くいらつしやいます。柔らかな笑顔の山本さんがお待ちしております。休息するイスもご用意しております。

まずは、奥まで入って和の雰囲気味わって下さい。



ジョイフル三ノ輪商店街
近江屋呉服店
南千住1-26-8
Tel (3891) 3504
営業時間：午前10時半～午後7時半